



平成21年度芸術創造活動重点支援事業

# 隅田川

SUMIDA GAWA



ごあんない  
権藤 芳一

後之彩色

廣田 幸稔  
Hirota Yukitoshi

狂言 鬼継子 茂山 千三郎

水衣(金剛家蔵)

## 第十二回廣田鑑賞会能

平成二十一年四月五日(日) 午後一時半始曲 (開場十二時半)

◆料金 / 【一般】8,000円 【会員】7,500円 【学生】3,000円  
◆主催 / 廣田鑑賞会 ◆指導 / 宗家 金剛永謹 ◆後援 / 金剛会・京都新聞社

会場 金剛能楽堂

TEL.075-441-7222  
京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1



# 第十二回 廣田鑑賞会能

午後一時半始曲 金剛能楽堂

## ご挨拶

いつも廣田鑑賞会をご支援いただき、誠にありがとうございます。今回は世阿弥の長男元雅作による名曲「隅田川」を演じさせていただきます。我が子を人商人（ひとあきんど）にさらわれた母が、ようやくたどり着いた東の果て、隅田川のほとりで出会ったものは…。母親の深い哀しみに胸が痛みます。詞章、話の展開、舞台演出のどれをとっても素晴らしく、演じる度に名曲の思いが深くなります。

狂言は、山中で出会った鬼に赤ん坊を奪われそうになる女の話です。茂山家に演じて頂きます。解説には能楽評論でお馴染みの権藤芳一氏にお願いをいたしました。

初春の晴れやかな一日、柳が芽吹く春の隅田川の風情に、ひと時ひたって頂けたらと存じます。ご高覧を心よりお待ちしております。

平成二十一年 如月吉日

廣田幸稔

## ◆ 番組

◎午後一時半始曲

狂言 鬼継子

茂山千三郎 松本 薫

後見 鈴木 実

ごあんない 能楽評論家

権藤 芳一

一 休憩 一 二十分

能 隅田川

後之彩色

西村 壘 廣田 幸稔 福王 和幸 山本 順三

河村 大 林 光寿

左 鴻泰弘

宇高徳成

金剛永謹

宇高竜成

宇高徳成 今井克紀 廣田泰能 重本昌也 掛川昭二 今井清隆 松野恭憲 種田道一

◎午後四時過終了予定  
都合により内容を一部変更する場合がございます。

## 狂言 「鬼継子（おにままこ）」

赤ん坊をつれて山つ向こうの親元へ向かおうとする女が、播磨国印南野で落ちたりと鬼に出会う。鬼は女を食うかわりに女房にしようとする。女はしぶしぶ承知をする。女が身づくろいをする間、鬼が赤ん坊をあやすのだが、ついに夢中になるうちに鬼の本性が出てくる。

鬼が懸命に赤ん坊をあやすしぐさが見どころ。めでたしめでたしで終わります。

## 能 「隅田川 後之彩色（すみだがわ）」

春霞の立ち込める隅田川の川岸に、東国の商人（ワキツレ）が渡し舟に乗り込もうとするところから舞台が始まる。商人の後方になにやら人だかりがし、都の女（シテ）が物狂いの様子で来るという。興に感じた渡し守（ワキ）は女を乗せるかわりに、舞を乞うが、女は伊勢物語の歌を引いて反対に彼をさす。彼女は夫に死に別れ、幼い息子と暮らしていたのだが、人商人に息子をさらわれ、其の行方を尋ねて京都をはるばる離れた隅田川にまでたどり着いたのであった。

ようやく乗り込んだ船の中から対岸を見ると、川岸の塚の前で人々が集まり、かすかに念仏を唱える声も聞こえてくる。女の問いに答え、渡し守はこの川のとおりで二人の幼子が息絶えた様子を語り始める。父には早く死に別れ、都の北白川に母と二人で住んでいたが、人商人にかどわかされて、東国まで連れてこられた末、慣れない長旅に力尽きたのだ。非常な人買いにうち捨てられ、彼は、母に思いをはせつつ息をひきとったのが一年前の今日、三月十五日。念仏は哀れな幼子を供養する人々の声であったのだ。船中で「通りを聞き終えた狂女は涙ながらに聞き返す。「何処の者？」、「稚児の年は？」、「その名は？」。それは、まさしく我が子であった。

悲惨な現実を直面し、今一度我が子の姿を求めて土を掘り返そうとする女。気を取り直して人々と説経を始めると、その説経の中に愛児の声が聞こえてくる。「今声こそ、きかまほしけれ」。母の悲痛な叫びに塚の中より我が子の幻が現れる。しかし、我が懐に抱こうと差し伸べてもその手はむなしく空を切るだけである。気がつけば、夜は白み、草の茂った小さな塚が一つあるのみであった。

シテ 都北白川某の女・梅若丸の母 面／深井 子方 梅若丸  
ワキ 隅田川の渡し守り  
ワキツレ 都の商人

当日配布冊子 解説 能楽評論家  
浄土真宗教学伝道研究センター所長 龍谷大学名誉教授

甲南大学教授

権藤 芳一 上山 大峻 西條 隆雄 水谷 弓

廣田幸稔（ひろた ゆきとし）

金剛流シテ方

先代および当代宗家・金剛永謹と父隆一に師事

重要無形文化財保持 金剛会理事  
京都市芸術新人賞 文化庁芸術祭新人賞



※当日解説付番組あります。



〈次回公演予定〉 第13回 廣田鑑賞会能 平成21年10月4日(日) 午後1時半始曲 能「融遊曲」廣田幸稔 狂言 解説  
第14回 廣田鑑賞会能 平成22年 4月4日(日) 午後1時半始曲 能「采女」廣田幸稔 狂言 解説  
ホームページ URL <http://hirota-kansyokai.la.coocan.jp> 右のQRコードで携帯からもアクセスできます。

菊之会 平成21年 3月 8日(日) 午後2時始曲 能「百万」廣田泰能

FAXにても、ご予約を承ります。 廣田鑑賞会 075-722-9123までご送信ください。 切符は当日受付にて、お引渡しとなります。

## 《第12回 廣田鑑賞会能 申し込み》

■お名前

■お電話・FAX

■ご住所

■一般券 (8,000円) 枚 ■学生券 (3,000円) 枚

会員入会 (第12回、第13回 年2回公演分) 会員7,500円 (年会費 15,000円)

第12回のみ

※ 内にチェックして下さい

## チケット取扱所

●ローソンチケット(Lコード 53642) ●金剛能楽堂075-441-7222 ●京都新聞社文化センター ●檜書店 ●京都会館プレイガイド 075-771-6056 ●廣田鑑賞会 075-722-9123